

その-9 アジサイの花は千紅万紫

千紅万紫 センこうばんし の意味

さまざまな色の花が咲き乱れている様子。または、さまざまな色を言い表す言葉です。「千」と「万」は数が多いことのたとえ。「紅」と「紫」はさまざまな色の花をたとえたものです。

この言葉、実は2020年5月に鎌倉アジサイ同好会が開催を予定していた「日本の自生アジサイ展」のポスター標語にしていたものです。残念ながら新型コロナウイルスの影響から展示会は中止となり、準備したポスターや案内ハガキは全て無駄になりました。下の写真は今年のポスターで国内に自生するヤマアジサイの花の色を理解して頂くために多くの品種を掲載しました。展示会ではこれらの花を実際ご覧いただき多くの花色を楽しんで頂く予定でございました。

今回、アジサイの栽培方法 その-9では今年予定したポスターに載せた品種や他の色も含めてアジサイの色や形は「ヤマアジサイだけでもこんなに沢山あるのだ」ということをご理解頂けると幸いです。



緑色に咲く品種



嶺の緑宝 高知県産



緑神 九州産



津江緑橙 大分県産



津江緑玉 大分県産



土佐緑風 高知県産



津江緑 大分県産

黒色に咲く品種



土佐黒丸 高知県産



伊予薄墨 愛媛県産



清澄沢 千葉県産

赤色に咲く品種



赤兵衛 愛媛県産



クレナイ 長野県産



瀬戸の夕紅 愛媛県産

緑色に咲くヤマアジサイの代表的な品種を載せてみました。アジサイの場合は咲き始めに淡い緑色の品種も多いのですが咲き進むにつれてピンク、淡い青に変化する品種もあります。黒色の代表はこの2種です。赤花の代表は良く知られているクレナイです。この品種の咲き始めは白色ですが徐々に赤に変化し、咲終わりは濃赤となります。

桃色咲きタイプの品種



満天星 大分県産



九重麗華 大分県産



秋芳の桃姫 山口県産



九重の桃姫 大分県産



桃色ヤマアジサイ 静岡県産



脱藩の暁 高知県産



羅漢の華 高知県産



赤てまりくずれ 高知県産



伊予桜 愛媛県産



酔湖姫 高知県産



防長紅小雀 山口県産



日向紅子持ち 宮崎県産

桃色に咲く品種はその濃淡変化が多く、また咲く形も様々で観るものを楽しませてくれます。ここに載せたのはほんの一例です。アジサイは植えられた環境、特に土によって花の色が変わる植物ですから、ここで赤く咲いているヤマアジサイも土を変えたり、肥料の変化によって更に桃色が強くなることがあります。私は毎年、咲いたアジサイの写真を撮り続けていますが、年度によって花色の濃さや大きさの変化がよく分かります。

淡い桃色に咲く品種



おぼろ月 高知県産



プラネット 高知県産



玉の露てまり 高知県産



広瀬の華 島根県産



紅紫光 鹿児島県産



小田深山 愛媛県産



綾 石川県産



橋原永玉 高知県産



姫恋 高知県産



鹿野の華 山口県産



由布の虹 大分県産



京の舞姫 京都府産

真っ赤に咲くヤマアジサイは少ないのですが、白～淡い桃色～桃色はこのように多くの品種が見つっています。写真の酔湖姫、おぼろ月という品種はヤマアジサイとコガクウツギが自然交雑したのですが丈夫で花付も良く、挿し芽により簡単に増やすことも出来ます。また、写真の由布の虹はもともと青色が混ざった複雑な色でしたが今年度は肥料の影響か完全な桃色に咲いてくれました。

石川県産の綾は淡い桃色の八重咲品種で毎年展示会では大変人気の高いアジサイです。石川県産ですから冬は雪に覆われているのでしょう。綾はエゾアジサイに分類されていますがエゾアジサイは小さく育てることは難しく、6号以上の大鉢であまり剪定をせず自由に育てた方が毎年花付は良いようです。島根県産の広瀬の華もヤマアジサイかエゾアジサイか微妙ですが、この品種も5号以下の小鉢では良い花は付かないようです。

白色に咲く品種



無銘 山梨県北杜市石空川



しらさぎ 京都府産



阿波白 徳島県産



黄金富士 静岡県産



無銘 愛知県 柿本城跡



無銘 長野県大町ダム



津江小雪 大分県産



白うさぎ 高知県産



屋久島白雪 鹿児島県産



白舞子 静岡県産



笹の舞 静岡県産



無銘 茨城県 御前山

ヤマアジサイは国内47都道府県すべてに自生し、その品種の数は千種類以上と思われます。花の色から調べてみると関東周辺から東北地方にかけてのヤマアジサイは殆ど白色が圧倒的に多いことが確認されています。中でも山梨県、静岡県のヤマアジサイには額咲きに混ざって八重咲きやテマリ咲きも自生種が紹介されています。

白色のアジサイは用土を酸性または弱アルカリ性用土としても咲く色には影響しません。色を楽しむならば白色品種が一番楽かも知れませんね。

余談ですが、ここに載せた茨城県産のヤマアジサイは純白大輪の額咲き自生種です。偶然昨年の自生アジサイ展で知り合った常陸大宮市在住の方から頂きましたが、採取した御前山は標高156mの低い山でヤマアジサイが自生するといわれる800m~1,200mより大分低いのには驚きました。

濃い青色に咲く品種



九重紫紅 大分県産



藍姫 徳島県産



九重濃色 大分県産



長門紫 山口県産



九重一番 大分県産



豊後てまり 福岡県産



湯布院青 大分県産



美栄の華 大分県産



紫変化 鳥取県産



普賢の華 長崎県産



紫水晶 新潟県産



リオの夢 愛媛県産

ヤマアジサイといえば青、藍、紫色それも濃く咲く品種には特に引き付けられます。現在どの品種の青色が一番濃いか、アジサイ仲間では度々話になりますが、赤ではクレナイを日光に十分に当てた咲き終わり頃で大体一致するのですが青系となると・・・これがなかなか結論は出ません。当然のこと、管理する用土や肥料、場所などの条件によって青系の色は大きく変化する品種が多いことが要因でしょう。

青系については日本の国内は弱酸性の土壌が殆どですから当然青系の品種が多くなります。ヨーロッパではこれが炭酸カルシウム分を多く含む弱アルカリ性ですから青系は赤系に変化しやすいことになります。最近四国のカルスト台地付近では赤系の新種が多く発見されています。

青色に咲く品種



深山八重紫 京都府産



日向青てまり 宮崎県産



筒井童子 滋賀県産



土佐遊蝶 高知県産



土佐日記 高知県産



土佐童 高知県産



星の輝き 熊本県産



坊ヶ鶴てまり 大分県産



山濃紫 鳥取県産



九重至宝 大分県産



久住の光 大分県産



海峡 韓国産

青色系の品種を多く載せましたが、まだまだこの他にも沢山紹介されています。詳しくは、Facebook 鎌倉アジサイ同好会で御覧下さい。

因みに・・・私は九重一番が濃い青だと思いますが・・・。一番という名前が付いている程ですから。

淡い青色に咲く品種



山口の風 山口県産



ティアラ フランス産



流星光 大分県産



防長碧てまり 山口県産



八重甘茶 長野県産



内田ブルー 高知県産



長州維新 山口県産



仁淀川慕情 高知県産



雅 鳥取県産



石鎚てまり 徳島県産



大剣 徳島県産



一字の青 徳島県産

ヤマアジサイ鑑賞の仕方について、少し大げさにその魅力を述べると粗野で佻しく、少しうら寂しい雰囲気引き付けられませんか。毎年の自生アジサイ展には大勢の方々にご来場頂き大変有難いことではありますが、アジサイでも品種によって、特にヤマアジサイの場合は私は個人的には大勢で上から見下ろすようにワイワイと皆で鑑賞するのではなく、出来れば自分の目線の高さに花がくるように鉢を置き一人でゆっくりと落ち着いた雰囲気と場所で枝先に揺れ動く花を黙って観ることの方が楽しめる植物ではないかと感じています。

アジサイについては大型で豪華な花を付ける品種とともに、小型で地味な品種も味わってみたいですね。

珍しい色と花の形の品種

レンガ色の品種



土佐の暁 高知県産

白色にわずかな青の紺模様



ちぎれ雲 エゾアジサイ系

青色に白点々模様



久住の線香花火 大分県産

虹色の品種



由布の虹 大分県産



夢 大分県産

桃色に白の絞り



無銘 絞り咲き 高知県産

青に白の紺模様



伊予の青紺 愛媛県産



稲妻 大分県産



紅剣 徳島県産

ギザギザの装飾花



屋久島コンテリギ 鹿児島県産

獅子葉咲きの装飾花



九重凜華 大分県産

ラッパ状に咲く装飾花



七人の小人 四国産

色の他にも、絞り模様や紺模様、吹きかけ、掃け込み模様など、また装飾花の形にも珍しい品種があります。

淡い青色から底白の装飾花



さわ風 高知県産

装飾花のない小紋柄品種



伊予小紋 愛媛県産

赤が複雑な模様



小渦 高知県産

白にピンクの覆輪



羽衣の舞 静岡県産

一つの装飾花で青と赤に咲き別れる



嶺の妖精 四国産

白色に爪紅色



唄姫 高知県産

蝶が舞う姿に似た品種



池の蝶 徳島県産

小さな蝶が飛んでいる様な



土佐の小蝶 高知県産

何とも複雑なてまり咲き



雷華 愛媛県産

特異な形のナデシコ弁品種



唐津 佐賀県産

珍しい装飾花の形を持つ品種



さざ波 愛媛県産

装飾花が渦巻きのように咲く



九重渦巻 大分県産

今年咲いた花を紹介してきましたが、それぞれの品種の詳細は紙面の関係上
ご覧頂るか、(株)Aboc 社 「アジサイ百科」 川島榮生著 をご参照下さい。

鎌倉アジサイ同好会のFacebook で